

生徒会 N E W S

発行 令和5年5月26日
東中学校生徒会執行部
令和5年度5月号

～5月の常置委員会より～

★学級代表★

【目標】 一致団結

【目標】 時間を守ってテキパキ行動

【目標】 三年としての自覚をもってメリハリをつける

☆委員会☆

【1年目標】 一人一人がロッカーや机の周りをきれいにすること
を心がけよう

【2年目標】 たしかめて あなたのロッカー 大丈夫？

【3年目標】 ごみは落とさない・ロッカーを整理整頓して快
く過ごせるようにしよう

【1年目標】 服装や時間を意識して登校しよう！

【2年目標】 座ろうよ タイムリミット 二分前

【3年目標】 三年としての自覚を持った行動をしよう

【1年目標】 朝ごはんしっかり食べ体の調子を整えよう

【2年目標】 よく食べよく寝て生活リズムを整えよう

【3年目標】 早寝早起きをして体の調子を整えよう

【1年目標】 自分の仕事をできるだけ理解しスムーズに仕事
ができるようにしよう

【2年目標】 いろいろな仕事に挑戦していこう！

【3年目標】 仕事に責任感を持とう！

【1年目標】 この大人にしかできない飾りつけをしよう

【2年目標】 効率よく仕事をする

【3年目標】 見る人が見やすいように貼る

【1年目標】 担当と操作を忘れず放送する

【2年目標】 囁まずにスラスラ放送しよう

【3年目標】 時間に余裕をもって放送しよう

【1年目標】 集合してからの私語をなくそう

【2年目標】 一人一人が声を出して合わせる

【3年目標】 3分前に集合できるようにする

いじめについて考える日

5月7日はいじめについて考える日でした。先日、全校集会で校長先生がお話されていましたね。ところでいじめについて考える日とはどんな日か知っていますか？いじめについて考える日とは大阪市立の小・中・高校全校で行われている、いじめが子どもたちに与えた影響を伝える会を大きく知り、いじめを防止するために実施された日です。いじめについて考える日ができるきっかけは2016年8月に開かれた「おおさか子ども市会」で「子ども議員」が提案したことでした。「みんなが考え、いけば、いじめが減るのではないかな」と求める子ども議員の訴えを市側が受け入れたのです。いじめについて考える日を通して行われてきた取り組みをいくつか紹介します。児童生徒が考えて発表した「いじめを許さない」見のがさない「許さない」の「3ない運動」、SOSボックスの設置、さらに弁護士を招いてのいじめに関する独自の学習「Open Door」として校長室で校長先生と児童がいじめ議論を交わし、いじめ問題の理解を深めるケースもありました。このような取り組みが毎年行われています。これを機にみんなはどうすればいじめを減らし、失くすことができるのか考えていきましょー！

校則

みなさんが中学校生活をしている中で、「校則」というものがあるのはご存知ですよね。

その中には「授業の初めと終わりには礼をする」などの、生活態度の面から「整髪料(ワックス・スプレー等)の禁止」などの身だしなみの面まで、様々なことが決められています。

最近では、マフラーの使用が認められたり、ハサミの持ち込みが許可されたりと、校則が見直されてきています。では、なぜこのように今、校則が見直されているのでしょうか。

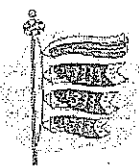
もちろん、時代の流れというのに関係しているのですが、一番は先生たちが私たち生徒のことを信用してくださっているからです。

よく、意見箱にこういう校則を変えてほしい、などの意見が届きます。

意見をたくさん言ってもらうのはとてもありがたいことなのですが、校則を変えらるるのは、まず皆さんが校則をしっかりと守っているというのが大前提なのです。校則に対して色々と言心見を言う前に、前髪はかためていませんか？ズボンの中の靴下の色は白色ですか？まずは自分から、かきりと、校則を守りましょう。よせられた意見箱に対しての回答は、一階のビロライのトロフィーなどがあがっている所の横に貼ってあります。ぜひ休み時間や放課後に見に行ってみてください。



こどもの日



こどもの日は、端午(たんご)の節句の日でもあります。子どもたちがみんなが元気に育ち、大きくなったことをお祝いする日です。

端午の節句の由来や

意味

「端午の節句」は、毎年5月5日に男の子の誕生を祝うとともに、その健やかな成長を祝う行事です。古代中国では、月と日に同じ奇数が重なる日を忌み嫌ひ、その日には邪気を祓う様々な行事がありました。

「端午」とは「はじめの午の日」を意味し、もととは時に5月に限らず、元日はありませんでした。午の日の「ウ」は「五」とも読まれ、ウとウの音が同じ「ゴ」ともなるので、数字の五と混同されていました。

その影響を受け、日本でも5月5日に端午の節句として厄除けの儀式を行うようになりました。

「端午の節句」



「こどもの日」

端午の節句の5月5日を現代では「こどもの日」として親しんでいる方も多いでしょう。江戸時代からこの日は公義の祝日として定められていました。

武家では、跡継ぎの男子の誕生は最大の慶事であり、端午の節句に兜や櫓旗を飾り、盛大に祝い、庶民もまたそれに倣いました。

こうして、時代男の子の誕生を祝い、その健やかな成長を祈る行事として普及しました。1948年には、この日を国民の祝日「こどもの日」(こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する)として、改めて制定されました。